貧困世帯に多い自宅出産の危険回避を目指して開設の助産所。第１号は２１００グラムの女児でした

今しばらく助産所運営へのご協力お願いします。(関連記事 P3)

ビラーン通信 95号

2018 年 10 月 25 日発行

NPO 法人ビラーンの医療と自立を支える会
（英文名略称・ＨＡＮＤＳ）
本部：〒227-0033 横浜市青葉区鴨志田町 516-11
TEL & FAX:045-500-9151
E-mail: hands-mindanao@nifty.com
http://hands-mindanao.a.la9.jp/
郵便振替口座　00210-5-72693
（加入者名）ビラーンの医療と自立を支える会

都会における貧困から学ぶ

副代表　古川順一

フィリピン訪問

昨年８月、マニラとセブのスラム街を訪問して、HANDS の活動を、別の角度から見る機会があった。そのスラム街は、現地 NPO に協力して、教育支援をしている「アライカパ友の会」の事業地域である。以下は、その現地訪問に同行した折の比較検討である。

都会における貧困

都市における貧困は、私たちが支援する少数民族の貧困問題とは異なる側面がある。経済的な貧困という点では共通する。しかし都会における貧困は、道路の反対側に、自己と比較できる豊かな他人を見るという意味でも残酷である。

また、狭い地域に密集して住むことで、プライバシーも失われる。家の中を覗かれるだけでなく、収入は噂になるので、貯蓄せず使ってしまうとも聞いた。現実逃避で麻薬を使用する例も多いという。麻薬は、貧困層の経済と意欲を奪っている。

学習の動機付け

高等教育におけるロールモデルの重要性について考えたい。子どもが学校教育を受けない理由は、①学費等の経済的理由、②親の教育に対する姿勢、③子どもたちの負け組意識の 3 点が重要と言われる。

ここで③について考えたい。学校（特に高校）に入っても中退する子どもは、自分の将来に希望が持てず、教育に背を向ける。つまり、義務教育や中等教育を受けても、結局は、自分は負け組だとあきらめる。

それを打破するためには、彼らの身近にロールモデル（お手本となるような人・あこがれの人）が必要である。中等教育、高等教育を受け、社会的に成功した成功事例が必要であると言われる。

この点を、「アライカパ友の会」は意識しているようである。大学進学を支援し、進学した学生たちを、地域のリーダーとして活用し、貧しい後輩たちに夢と希望を与えている。また卒業して活躍している若者の姿を、地域の子どもたち、親たち、そして地域の人たちに紹介し、勉強へのモチベーションを高めている。

就学前の児童教育：親を巻き込んだ教育支援

教育支援というと、小学生や中高生、さらには大学生などが思い浮かぶが、就学前の児童教育にも力を入れている。これは、生活習慣の確立、勉学の習慣などを育成するためである。これにより、次の小学校進学につながりやすい。

さらに、この取り組みは、親の意識変革を意図している。親は、子どもが教育支援（給食を含む）を受ける条件として、会の活動を手伝うことが義務づけられている。これは親同士の連帯感を生み出す。

都会における貧困から学ぶ

スラム街教育支援の実態から、HANDS の支援方法が、普遍性を持っていると確信できた。そしてロールモデルとしての高等教育支援の重要性も確認できた。

チボリでも、多くの卒業生が、チボリの教職員や他の職業で社会進出している。ビラーンでも高等教育に進むものも増えてきた。

大学生や卒業生が、子どもたちの身近な成功事例となり、子どもたちのみならず、親にとっても、子どもたちの勉学・進学の強い動機付けとなれるよう、現地と協力できればと思う。親も巻き込んだ教育支援方法を HANDS も積極的に取り入れたい。

さらに、チボリやビラーンの自立が、他の少数民族のロールモデルとなれれば幸いである。